

# 竹村 俊彦 (タケムラ トシヒコ)

(Takemura Toshihiko)



生 年 1974 年 出 身 地 三重県

現 職 九州大学 応用力学研究所 教授  
Professor, Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

専門分野 気候変動、大気環境

略 歴 1997 年 東北大学理学部卒  
1999 年 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了  
2001 年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了  
2001 年 博士(理学)の学位取得(東京大学)  
2001 年 九州大学応用力学研究所 助手  
2006 年 九州大学応用力学研究所 准教授  
2014 年 九州大学応用力学研究所 教授(現在に至る)

## 授賞理由

「エアロゾル気候モデルの開発とその気候変動および黄砂・PM2.5 分布予測などの大気環境研究への適用」

(Development of Aerosol Climate Model and Its Application to Research on Climate Change and Air Quality, Such as Prediction of Yellow Sand and PM2.5 Transportation)

竹村俊彦氏は、大気浮遊粒子状物質(エアロゾル)の輸送過程、放射過程、雲・降水過程を地球規模で詳細に再現・予測する数値モデル SPRINTARS を世界に先駆けて開発し、気候変動研究や黄砂・PM2.5 分布予測などの大気環境研究に応用した。このモデルは、硫酸塩、有機物、黒色炭素、土壌粒子、海塩粒子などエアロゾルの多様な成分を考慮し、粒子の表面物性や化学組成、大気中での化学的生成過程も取り扱えるようにした点で、独創性が高い。竹村氏は 30 代で気候変動に関する政府間パネル(IPCC)評価報告書の主執筆者に抜擢されるなど、その業績は国際的にも高く評価されてきた。気候変動研究への貢献に加え、その健康影響から注目が高まっている PM2.5 の週間予測システムを開発し、ホームページで予測結果を公開して広く活用されるなど、学術的成果の社会還元も顕著である。このように竹村氏は、地球規模から国民生活に直結する問題に至るまでの幅広い環境問題の解明に大きく貢献した。